

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		16 01 08	中期総合計画主要施策番号		3-11	担当課	部・課	警察本部 交通企画課	
事業名		高齢者等交通事故防止対策事業					内線	4526	
							E-mail	police-koutsukikaku@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	・高齢者の交通事故被害を抑止する。							
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・全体の交通事故件数が減少している中、高齢者の交通事故率が依然高い。							
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・交通社会に対する意識の低下。 ・加齢に伴う身体機能低下に対する認識不足。							
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・体験型交通安全教育による、身体機能低下の自覚を促し、自己防衛意識を育成する必要がある。 ・「出迎え」教育に加え、機動力を生かした「出前」教室による高齢者が参加しやすい交通安全教育の推進が必要である。							
	事業内容	・交通安全体験車「チャレンジ号」の効果的運用 ・運転免許センターへ高齢者を迎えて交通安全教育を実施する「出迎え式交通安全教育」 ・公民館等へ出向いて交通安全教育を実施する「出前式交通安全教育」							
実施期間	H20 ~	根拠法令等	交通安全対策基本法第30条第1項、第33条、第38条						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	・高度な交通安全教育機器を活用したきめ細かな安全教育の実施により、高齢者の交通事故被害の抑止を図る。(H24までの目標:高齢交通事故死者の構成率50%以下を維持する。)		・高齢者の関与する交通事故を減少させる。また、高齢交通事故死者の構成率を50%以下に抑止する。			・高齢の関与する交通事故は減少し、高齢交通事故死者の構成率が47.5%となり、50%を下回った。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円		20,208		国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円		20,157		実施方法 直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円		102		歳出節別内訳等	役務費:30 備品購入費:20,055 負担金:9 公課費:63	
	概 算 人件費	従事する職員数	人		0.01	0.01	(単位: 千円)		
	概算人件費 (C)		千円	0	71	71			
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	0	20,228	71				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	教育機器使用の交通安全教室受講者		人	550	676	700	交通安全体験車「チャレンジ号」の整備		
	高齢死者数(1~12月)		人	62	56				
	交通事故に占める高齢者の割合(1~12月)		%	51.2	47.5				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・高齢者の免許人口が増加傾向にあるなど、高齢者の交通事故防止は大きな課題であり、ニーズは一層高まっている。 ・交通安全教育は、交通安全対策基本法に規定された県及び自治体の責務である。 ・事業の一層の充実化を図るため、地域のニーズに応じた、より身近できめ細かい安全教育を推進していく必要がある。(H21年度から交通安全教育推進事業に統合。)		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・交通安全の確保は、県民の多くが望む課題であるが、未だ十分な成果を得られていない。特に高齢者の交通事故防止については、「長寿県 長野」における重要な課題であることから、交通安全教育機器のより効果的な運用を検討していく必要がある。							